

## 2 蛇見じまみの谷

岩崎 上谷大一郎

昔、村の人が朝起きたら、

「こんな夢見たんなあ、どこだろなあ」

「いや、わしも見たんだ」って、みんな村の人が、

「ああ、こんな夢を見たあ」

「こんな夢を見た」って、

「ああ、そりゃあ大変だ、こりゃあ」言って、

「そりゃあ、そこの蛇じまみ体たいが出たら、暴れて、村もなんもかも無くしてしまふ」いうのでな、で、なんとかしてなんとか早はやうせな、その日ひにちままでに間に合わせにゃあかん、いうので、そうしてまあ、話聞いいたら、今、出石いすしの方に帰かえったとこでなあ、暮坂くさかいうところがありますわ。その暮坂くさかに独ひとり寄よりの男おとこの人がおって、蛇を飼かったでなあ、ほいだらそこい行ってその蛇へびを連れてきてもらって、



ほいで、その蛇をずるずるずる行つて、そいで、その蛇がじいっとしたら、そしたら、その一番頭に大きな杭をどんどん打つたら、そいだら、その蛇体が目の玉に当たつて、目の玉か頭に当たつたので、そいでよう出んで、そしたらそれ一番ええ、いうことになつたらしいです。

ほんなら、それしようということになつて、暮坂に行つて頼んできて、その蛇飼いの人を連れて行つて、山に……。ほいだら蛇がずうつと山へ行つて、こう、あっちこっちしよる。ほいだまあ、

「ああ、ここに違くない」つて、村の人で、全部みんな総出で杭持つてそこへ行つて、どんどんどんどん杭打ちした。ほいだとところが、晩に、皆が休んでおつたら、夢見せがあつた、また。そいだら、

「あすこの家には山椒の木がある。そんな木はぶち切らなんだら、わしは出るところねえで、そいだら、その辺を暴れて迷惑すんで」という夢見せがあつた。

「ああ、そうか。そんなことが……。やあ困つたもんだなあ。そりやまあ、大荒れになつてしまふなあ。大荒れんなつたら、こりやまあ大蛇が出てつたは、大騒動んなる」つていふので、ほいだら集落の方もまあ、こりや大変になる。そいだとところがなんと、それが蛇体にならんと牛の格好をしてとんで出たつていう。

ほいで村は、荒れるのは荒れたんだけども出たという、そういう話がありますけど、やっばりそのこの谷はなあ、今でも、この土地の穴が、蛇が出る、蛇を見る、蛇を見るちゅう字い書いて、その谷があるんですわ。「蛇見」つてなあ、そこにはやっばり昔から、やっばり大きな蛇、おつたらし

いであつた。

△山「聞き耳頭巾」▽（翻字 山根節子）

\* 岩崎の長谷川弘之さんが付け加えて、現在では「蛇見」の地名は「上蛇見」と「下蛇見」として残っているけれども、話の蛇が出た場所は「下蛇見」の方で、そこには大きな地面の割れ目があるという。